



吉本みづる県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

小学校の不登校は過去最多!

不登校対策支援チームを設置

2月県議会一般質問に登壇



再質問で要望を語る吉本県議

文教常任委員長を務めるなど、県議会の中では教育問題に最も精通しているとの評価が高い富津市選出の吉本充(よしもと・みづる)県議は、2月県議会の一般質問に登壇し、不登校児童・生徒に対する支援策や、地元ノリ養殖の不作問題、昨年の台風21号による浜金谷港の復旧工事及び市内の道路問題、新県立図書館の整備方針などで森田知事ら県執行部の考え方をたずねました。

また、吉本県議は2月議会最終日に、48名の超党派議員で設立された「フリースクール等教育機会確保議員連盟」の会長に選任され、不登校で苦しむ子どもたちの支援に新たな役割を担うことになりました。

4年連続で増加

吉本議員 本県の公立小・中学校の不登校児童・生徒数は、平成25年度から4年連続して増加しており、平成28年度では、小学校1456人、中学校で4191人となっています。特に、公立小学校の不登

校者数は過去最多で、不登校の低年齢化が懸念されます。全国的にも同様で、高水準で推移するなど、憂慮すべき状況だと報告されています。そこで、伺います。新たな取り組みである県教育委員会が設置する「不登

校対策支援チーム」は、具体的にどのような活動を行うのか。

内藤教育長 不登校の要因は多様化・複雑化しており、個に応じた適切な支援が求められていることから、不登校児童・生徒には、福祉・心理・教育等の多面的な視点から支援する必要があります。と認識しています。

そこで県教育委員会では「スクールソーシャルワーカー」「スクールバイザー」や「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「不登校担当指導主事等で構成された専門家による支援チームを設置することとしました。

フリースクールと連携

吉本議員 また、フリースクール等の民間支援団体との連携を促進し、不登校児童・生徒に対する多様な適切な教育機会の確保を進め、不登校で苦しむ子どもを一人でも少なくすることが大切だと考えます。

本年度、本県の総合教育会議の場においても、不登校対策についての議論が精力的になされたと聞いています。

2点目として、フリースクール等の民間支援団体との連携促進について、県教育委員会としてどのように取り組んでいくのか。

内藤教育長 教育委員会・学校と、多様な学習機会を提供しているフリースクール等の民間の団体が連携することは、不登校児童・生徒の多様な状況に対応したきめ細かな支援を行う上で重要だと認識しています。このため、県教育委員会

主な活動としては、学校や市町村教育委員会が対応に苦慮している、解消が困難な事例について助言・支援等を行い、さらに研修によって、不登校の未然防止・初期対応・自立支援に向け取り組みの充実を図ってまいります。

では、昨年5月からフリースクール関係者との情報交換を継続的に行っており、教職員向けに配布する「不登校対策指導資料集」の中で、フリースクールの活動や連携の意義等について紹介することとしました。

県教委としては、今後と

フリースクール議員連が発足

2月県議会最終日の3月15日、議会閉会後に超党派の議員による「千葉県議会フリースクール等教育機会確保議員連盟」の設立総会が開かれ、吉本充県議が会長に選任されました。

同議連の総会では、世話人代表として吉本県議があいさつし「不登校の児童・生徒数が4年連続で増加を続けるなど、憂慮すべき状況にあり、県教委、民間のフリースクール団体が連携し、不登校で苦し

も児童・生徒の状況に応じ、きめ細かな支援を行うことができるよう、フリースクール等の民間支援団体との連携促進に努めてまいります。

県教委は、本年度からフリースクール関係者との情報交換をしているようなので、その成果を市町村教育委員会などに情報提供し、子どもたちのために何ができるか、一緒に話し合える関係づくりへの働きかけを進めて欲しい。不登校児童・生徒が、将来に向けて社会的に自立していくためにも、県教委としての不登校対策を、より一層推進していくことを要望します。



議連総会で挨拶する吉本県議

水産
総合研

改修工事の早急な実施を要望

クロダイの食害か？

吉本議員 千葉ノリは、色、味、香りの3拍子がそろった品質の良い「江戸前海苔」として高く評価されており、その約8割が私の地元、富津で生産されています。

しかしながら、ノリ養殖の生産状況を見ると芳しくない状況が続いています。昨年、一昨年の富津地区の生産量は、平年の約6割と不作でした。本漁期も、1月末現在で昨年漁期との比較では、3割増加とはなっていますが、依然として厳しい状況であることに変わりありません。

ノリの漁期は、4月までですので、今後の生産に期待しているところですが、仮に3年連続して不作となれば、来漁期以降の生産が大変心配されています。

不作はさまざまな要因によるものと考えられますが、安定した生産が見込めず、将来に見通しが立てられなければ、ノリ養殖に生活を委ねることができず、廃業が加速するのではないかと危惧しているところです。

そこで、ノリ養殖における不作原因の究明状況はどうか。また、今後どのように取り組んでいくのか、伺います。

森田知事 9月から翌年4月に行われるノリ養殖では、近年、漁期の前半において、これまでのような高温水化に起因したものは考えにくい不作が続いているため、その原因を究明し、対策を講じていくことが課題となっています。

そこで、生育不良のノリ網の観察から、魚類による食害が、また、漁場ごとの海水を使用した培養試験から、生育に必要な微量成分の不足が原因として疑われたため、その両面から調査と分析を行ってきました。



網に付着したノリ



ノリ網に付着したノリを食べるクロダイ(水中カメラで撮影)

7種類に増やして、さらに分析を進めるなど、原因究明や対策に取り組んでまいります。

その結果、クロダイによる食害の様子が水中カメラで観察され、防除ネットの設置による一定の育成効果を確認しましたが、海水に含まれる鉄などの4種類の微量成分は、漁場間では差はありませんでした。

今後、漁業者と連携して食害の詳細な状況を明らかにし、作業負担の少ない食害対策を開発するとともに、微量成分の調査対象を

数個所に設置して、動画を分析するなど、詳細な実態把握を行っていただきたい。もう一つ気がかりなこととして、ノリの色落ち現象がありますが、佐賀県では終末処理場からの排水がきれいになり過ぎていることが原因ではないかということで、排水処理を調整する取り組みが始められており、それにより色落ちがなくなり、生産が増えたと言われています。

ぜひ東京湾のノリの色落ちに関して、きれいな海と豊かな海はイコールではないということを踏まえて、栄養塩との関係について調査研究を行っていただくとともに、他県での事例も参考にノリ養殖時期の栄養塩のあり方について、関係部局間で検討を始めていただきます。

要望 県においては、引き続きノリ不作の原因究明をしつかりと行っていただき、不作原因の一つとされているクロダイなどの魚類による食害については、ぜひ水中ビデオカメラを復

吉本議員 養殖などの生産現場に大きな影響を及ぼす近年の漁場環境の変化等に適切に対応するためには、その原因を調査・分析し、技術指導する水産総合研究センターの役割は重要になると考えます。そこで伺います。

水産総合研究センターの役割が、今後、ますます重

漁場環境の変化

要になると考えるがどうか。

森田知事 水産総合研究センターは、水産資源の維持・増大、操業の効率化、加工技術の開発など、現場に密着した試験研究に取り組む、生産現場を技術面から支えてまいりました。近年、ノリ養殖の不作や消費者ニーズの変化など、新



発言を求めて挙手する吉本県議

な問題が起きており、その対応が求められています。そのため、海水温の上昇や消費者の魚離れなど、水産業を取り巻く環境の変化に対応する専門的な研究や技術開発等に取り組むとともに、これまでの研究を高次元化し、これらを効率的かつ戦略的に進めることが不可欠です。

併せて、これらの研究を実現するための施設については、「千葉県県有建物長寿命化計画」を踏まえながら調整を進め、早急な改修に向けて努力してまいります。

要望 知事から答弁いただいた水産総合研究センターですが、水産業を技術面から支える重要な機関であるというのは、論を待たないわけでございまして、試験研究機関の老朽化対策については、昨年9月定例県議会の一般質問で、わが党の木下県議からも質問と要望がされておりました。

ぜひ、水産総合研究センターの施設は、県有建物長

●県政と富津市に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

吉本 充 県議事務所
〒299-1606 富津市数馬421-5
TEL.0439-29-5502

早急に浜金谷港の復旧を!

今年の台風で甚大な被害

吉本議員 私の地元、浜金谷港は、昔から房総と湘南を結ぶ海上交通の拠点として、当地域の発展に寄与してきました。昭和35年には、東京湾フェリーが就航し、現在では、アクアラインとともに南房総の観光を支える貴重な交通機関として大きく地域に貢献しています。

しかし、昨年10月に襲来した台風21号では、これまでに経験したことのない暴風と高波が港を襲い、係留中

の漁船は転覆し、護岸を超えた高波は、背後の民家にまで及び、港の風景は一変してしまいました。

翌朝、心配で私も港の様子を見に行つたところ、目を疑うばかりの光景でした。地元では、被災した港の復旧の見通しを心配する声や、今後、巨大化が予想される台風に備えるためにも、古くからの防波堤などの補修を望む声が大きくなっています。

そこで伺います。被災し



浜金谷港のカーフェリー

た浜金谷港の復旧に向けた取り組み状況はどうか。また、老朽化対策も併せて進めるべきと思うがどうか。

県土整備部長 昨年10月の台風21号で、浜金谷港では護岸の倒壊や防波堤の沈下など、甚大な被害を受けました。県では、直ちに現地調査を行うとともに、大型土のうにより被害の拡大防止を図つたところです。

1月上旬に災害復旧事業の実地査定が完了し、現在は早期復旧に向け、工事の年度内発注の手続きを進めております。

また、老朽化対策についても、平成24年度に策定した維持管理計画に基づき、点検を行っているところであります。この中で、性能が著しく低下している施設から補修等を実施する方針としており、今後、富津市や港湾利用者と協議の上、進めてまいります。

要望 浜金谷港は老朽化が著しく、堤防等の改修が喫緊の課題であり、地元富津市も前向きに対応するということなので、大至急協議を進めていただきたいと思います。

本郷バイパス

吉本議員 次に道路問題について伺います。まず、県道君津大貫線の本郷バイパスの整備ですが、本道路は、富津市大貫地区から君津市中心市街地を経て、君津市坂田地区の国道16号を結び、君津、木更津方面への通勤・通学などの主要なルートとして大変需要の多い道路です。県道君津大貫線本郷バイパスの進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道君津大貫線の本郷バイパスは、現

道の幅員狭小や線形不良の解消を図るため、君津市下湯江地先から富津市本郷地先までの1.6キロ区間において、バイパス整備を進めているところです。

これまでに面積ベースで約98%の用地を取得させていただいており、今年度はまとまった用地が確保できている、南側の工事に着手しており、現在延長0.2キロで排水工事や盛土工事を実施しています。

引き続き、地元のご理解とご協力いただきながら、残る用地の取得を進め、平成35年度までの供用に向け、早期完成に努めてまいります。

小櫃佐貫停車場線

吉本議員 県道小櫃佐貫停車場線は、君津パークエリアスマートインターチェンジなどから、鹿野山を中心とした観光地へのアクセス道路として大変重要な路線です。同路線の富津市桜井総稱鬼田山周辺の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道小櫃佐貫停車場線については、現道の狹隘で屈曲した区間を安全で円滑な交通を確保し、観光地へのアクセス改善を図るため、君津市鹿野山

地先から富津市桜井地先まで2.6キロの現道拡幅整備を進めております。

このうち、館山自動車道側の0.5キロを優先区間として整備しており、この区間の工事着手に向け、保安林解除の手続きを進めているところです。

要望 観光等すべてに影響の大きい路線ですので、1日も早い完成に向けて、ご尽力賜りますようお願いいたします。



森田知事ら執行部に質問する吉本議員

また、国道465号の千種新田バイパス整備についても、地域にとって大変重要な道路であることから、積極的に推進していただけるよう要望します。

新舞子世毛地先

新年度改良工事着手へ

吉本議員 県道新舞子海岸線笹毛地先は、国道127号と465号を結び、地域の生活道路としてのみならず、海水浴場として知られる新舞子海岸沿いを走るため、観光地へのアクセス道路としても大変重要な路線です。

しかし、笹毛踏切前後では道路幅員が狭く、車両のすれ違いもままならない状況です。県道新舞子海岸線笹毛踏切前後について、改善が必要と考えるがどうか。

県土整備部長 県道新舞子海岸線は、地域に密着した生活道路であり、また、観光地へのアクセス道路としても利用されていますが、笹毛踏切前後については、道路の線形が悪く、また、幅員も

狭いことから、交通に支障をきたしており、安全な通行を確保するため、改善が必要だと考えています。

このため、平成30年度から用地調査などを実施し、道路改良事業に着手する予定です。また、踏切についても、改善に向け鉄道事業者と協議を行つてまいります。

今後は、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業が円滑に進むよう努めてまいります。

要望 質問した3路線ですが、それぞれ前向きな答弁をありがとうございました。地元にとっても、産業、観光等、すべてに影響の大きい路線ですので、1日も早い完成に向けて尽力を賜りますようお願いいたします。

道路問題

産業と観光を支えるために

新県立図書館検討に着手

県立図書館は1館体制へ 施設複合化を視野に検討

「MLA連携」

吉本議員 図書館は「知の拠点」と称されますが、現在では情報の発信拠点として、また、博物館は地域文化を後世に残していくために、住民にとっては欠かすことのできない施設であると考えています。

文教常任委員会では昨年、福井県の図書館と文書館・文学館との複合施設を視察しました。広々とした

いての記載がありました。

それぞれの施設の機能強化や県民サービスの向上につながることを期待し、複合化の可能性を示したことは、資料の収集・保存、調査・研究、県民への提供、そして後世への継承といった点で、大いに歓迎すべきことです。が、それ相当の環境が必要だと考えています。

そこで伺います。新県立図書館基本計画策定事業は、どのような内容か。

内藤教育長 本事業は、「千葉県立図書館基本構想」を踏まえながら、新たな県立図書館を整備するた

3館を1館に集約化

吉本議員 基本構想では、3館ある県立図書館を

1館機能集約し、新県立図書館を県中央部に整備することですが、その場合、西部図書館及び東部図書館の施設の有効利用を含めた今後の方向性も検討しなければならぬと思います。

1館体制に伴い、西部図書館及び東部図書館はどのようなになるのか。

め、利便性・機能性や環境に配慮し、さらに他県の整備事例も調査した上で、延べ床面積等の施設規模、施設内の配置、立地場所等の具体的な計画を策定していくものです。

また、工事費の概算や資料の搬送・保管作業等のスケジュールを含めた建設工程についても検討していく予定です。

基本計画の策定に当たっては、民間コンサルタントの専門的な能力を活用し、研究者や建築家等の有識者の意見や県民の声を反映しながら進めてまいります。

内藤教育長 県立図書館の1館集約化に伴って、西部図書館と東部図書館の施設については、所在している松戸市及び旭市と今後の有効活用についての検討を始めたところです。

県教育委員会としては、今後、県民の皆様の意見に参考し、施設の有効活用について地元市とともに検討してまいります。

要望 新県立図書館建設に当たっては、図書館、文書館を一体化する



建て替えが検討されている現在の県立中央図書館(千葉市中央区)

県立博物館の役割

とともに、博物館との連携をさらに深め、教育立県を

吉本議員 県立博物館については、平成28年7月に

県行財政改革推進本部で決定された「公の施設の見直し方針」で、現状の分散型の施設配置を見直し、効率的な施設運営や地元の地域活性化の施策を踏まえ、指定管理者制度の導入や、地元市への委譲の可能性を検討することとされました。

この見直しの中で、博物館が担わなくてはならない、さまざまな役割が決して疎かにならないことがあつてはならないと考えます。

そこで伺います。公の施設の見直し方針に伴う、県立博物館における検討内容

教職員の研修計画

吉本議員 教職員の負担軽減を含め、中堅教諭等資

質向上研修と免許状更新講習との連携など、研修のあり方について、今後どのように検討を進めていくのか。

内藤教育長 教職員の負担軽減を図る観点からも、研修のあり方を見直していくことは重要だと認識しています。現在、県教委では、国の法令改正に基づき、教職員の資質能力の向上に関

館は、県民の満足度の向上を図るため、現状の分散型の施設配置を見直し博物館機能の集約化を検討し、一部の博物館については、指定管理者制度の導入や、地元市町への委譲の可能性を検討することとされています。

県教育委員会では、この方針を受け、これまでに県立博物館の現状と課題について整理したところであり、引き続き県立博物館としての役割を踏まえた機能や施設運営のあり方について、生涯学習審議会の意見を伺いながら、検討を進めてまいります。

要望 施設を単に減らすのではなく、中央博物館が担っている貴重な資料の収集・保管、調査・研究、教育普及の仕事をより充実させていくことを同時に進めるべき。今後の博物館の見直しでは、この視点を忘れずに取り組んでいくよう、強く要望します。

する指標を策定しているところであり、今後、指標を踏まえた新たな研修計画を検討してまいります。

具体的な研修計画を策定する際には、中堅教諭等資質向上研修と免許状更新研修の相互認定や、必要に応じてインターネットで受講できるeラーニングによる研修を実施するなど、教職員の負担軽減も検討してまいります。